「陸前高田バイパス」復旧

一般車両が通行できるようになった陸前高田バイパス＝陸前高田市

震災から15日目

まず2.5キロ 一般車が通行

巨大地震津波が襲い、通行止めとなっていた陸前高田市の高田松原沿いを走る国道45号「陸前高田バイパス」は、25日夕から2・5㌔の区間が復旧した。被災から15日目という超スピード復旧で、全長の約6割が一般車両の通行が可能となった。残り1・5㌔の区間と気仙大橋の一日も早い復旧が待たれている。

陸前高田バイパスの区間は、米崎町の沼田跨線橋～気仙町の気仙大橋までの約4㌔。11日の地震津波で被害を受け、全面通行止めとなっていた。

沼田跨線橋（延長約65㍍）は、橋脚四つを残して橋桁が流された。タピック45付近の川原川に架かる川原川橋（同約29㍍）も、橋脚の右岸の土砂が流出した。

気仙川に架かる気仙大橋（同約182㍍）は、上部工が流失して橋脚のみとなり、景勝地を通る高田松原一帯が通行不可となった。国交省三陸国道事務所大船渡維持出張所は、被災直後の18日から復旧工事に着手した。

復旧工事では、ＪＲ大船渡線と立体交差していた沼田跨線橋に、線路と平面交差する形で2車線の仮設道路（同約500㍍）を造った。

川原川橋は、仮橋（同約50㍍）を架けて片側1車線の通行を確保した。国道のがれきを取り除く作業も行った。

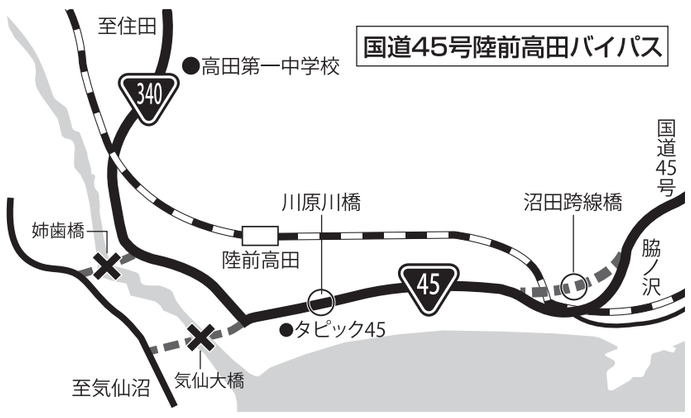
迅速な工事で、沼田跨線橋から国道340号（住田町に至る）の起点で、国道45号と接続する地点の高田松原野外活動センター付近まで約2・5㌔が復旧。着工から8日目で部分開通にこぎ着け、一般車両が通れるようになった。

高田町の市街地の市道では、がれきの撤去作業が行われており、緊急車両以外は通行不可となっている。このため一般車両が通行できるバイパスの復旧は、復興に向けた大きな足がかりとなる。

同出張所の外崎高広所長は「沼田は仮設道路だが、安心して通れるように舗装、ガードレールの安全施設を補強していきたい。その間はゆっくり通行してほしい」と話している。

同バイパスの気仙大橋の先にある気仙町内では、市道のがれき撤去が行われている。通行が制限されているが、一般車両も入り渋滞も発生。気仙や長部地区と災害対策本部との救援物資の輸送路となっており、気仙町内の速やかな救援、復興のために「関係車両以外は迂回してほしい」と合わせて協力を求めている。

宮城県気仙沼市方面へ向かう一般車両は、国道340号の廻館橋～国道343号～県道34号（矢作町）を通り鹿折に抜けるルートが、「安全安心で早い」（大船渡維持出張所）と迂回ルートの利用を呼びかけている。



インフラ復興への足がかり

水産被害は526億円

事業所の53・9％が被災

大船渡市

大船渡市は26日、東日本大震災による水産関係被害が概算で526億円に上ると発表した。また、市内にある事業所のうち53・9％が被災し、施設損壊などの被害が出たことも明らかにした。

大津波襲来によって、沿岸部では漁船や養殖施設が流されるといった被害にとどまらず、漁港も各地で損壊した。沿岸部に位置していた養殖物の稚魚育成を担う水産施設も、壊滅的な被害を受けた。

水産被害のうち、いかだなどの養殖施設は54億円、ワカメやカキ、ホタテといった養殖物そのものは67億円、定置網は52億円。水産関係施設は19億円で、漁港被害は約200億円。漁業集落排水施設も、15億円の被害があったと試算している。

漁船被害は70億円。漁業用の各種船舶は市内に約3000隻あったが、そのほとんどが流失などの被害を受け、無事だったものはごく僅かという。

市内では住居も沿岸部に位置している漁業者が多く、水産業の再興に向けては、生活・漁業両面での支援充実が必要となる。市では国などからの財政的な支援を強く求めていくことにしている。

また、製造業やサービス業など市内にある2629の事業所中、被災を受けたのは14

甚大な被害を受け、営業再開のメドが立っていない大船渡魚市場＝大船渡町

16事業所と半数を超えた。建物の損壊といった直接的な被災をまとめた数字であり、取り引き先の減少をはじめ間接的な被害を受ける事業所はさらに上回るものとみられる。

小中学校被害は40億円と試算。市内では赤崎、越喜来両小学校と、赤崎中校舎が全壊。大船渡、綾里、崎浜、吉浜の各小学校と、第一、末崎、越喜来の各中学校でも一部損壊の被害を受けた。

市では「水産、小中学校被害は現時点での概算額であり、今後の調査によって変更となる可能性がある」としている。

きょう特別労働相談

東日本大震災の発生受け

岩手労働局

岩手労働局は27日、東日本大震災の発生に伴う特別労働相談を電話で受ける。

特別労働相談窓口で受け付ける相談内容は①震災で被災した事業所における雇用維持等に関すること（雇用調整助成金の活用など）②震災で被災した事業所の労働者に対する雇用保険の支給に関すること（求職者給付の特例措置など）③震災に関連した賃金・解雇等労働条件に関すること④震災に関連した労災保険給付に関すること⑤未払賃金の立て替え払いに関すること⑥震災で事業が停止した事業場の労働保険料の申告・納付に関すること⑦震災による緊急避難のための一時入居先としての雇用促進住宅の入居に関すること――など。

各窓口の電話番号次の通り。相談受付時間は午前9時～午後5時。

▽岩手労働局総務部企画室＝019・604・3002▽総合労働相談コーナーフリーダイヤル＝0120・980・783▽岩手労働局労働基準部監督課＝019・604・3006▽岩手労働局職業安定部職業安定課＝019・604・3004。

首相に早期支援要望

犠牲者数は1179人

大船渡市

大船渡市によると、26日午後4時30分時点での死亡者数は257人。前日よりも6人増え、新たな身元判明者5人を発表した。安置場所は立根町の第一中学校をはじめ5カ所となっている。

行方不明者数は276人で、前日よりも30人減った。生存判明者が32人で、死亡判明者は3人。また、新たな不明者5人を加えた。

この日は午後にかけて雨や雪が降る中、大船渡町の北側地域で自衛隊や緊急消防援助隊、警察、海上保安庁ら90人規模での捜索活動を展開。がれき撤去や被害車両の撤去作業も進められている。

戸田公明市長は記者会見で、同日午後に菅直人首相と電話会談を行ったことを明らかにした。この中で市側から▽激甚災害指定による迅速な財政支援▽がれき撤去や建物解体における国の費用負担▽事業所への無利子融資▽家屋高台移転時の国による住宅地買い入れ支援――の4項目を要望した。

これに対し、菅首相は要望に理解を示しながら「今回の災害を乗り越えていくためにも、新たな災害対策の法律を考えていきます」などと述べたという。

要望のうち、家屋の高台移転については、市長の私見と前置きした上で、今回浸水した地域には木造住宅を造らない都市計画を目指したい考えを示した。

「家屋移転については都市計画の用途変更にかかわる問題で、審議会などの了承が必要であるほか、さまざまな意見が出てくるとは思う。教訓を生かすためには、住宅は高台や、海より奥に持っていくことが必要と考えている」と述べた。

陸前高田市

陸前高田市によると、住宅被害数は3600戸で、被災人員は1万547人。25日午後6時現在の死者数は922人で、前日より29人増えた。このうち、36人の身元が判明した。

震災から2週間が経過して遺体の損傷が進んでいることもあり、市内における身元確認率は他市町に比べて低下しているという。このため、市では地域の状況を熟知している民生委員、区長、公民館長らに遺体の身元確認への協力を呼びかけている。

遺体は下矢作小、米崎中、矢作小、矢作中4校の体育館と、住田町生涯スポーツセンターに安置されており、開所時間は午前8時30分から午後5時。火葬は、市と県が指定した自治体で行われている。

行方不明者は、26日午後4時現在で1296人。前日より56人減少した。

同日同3時現在、避難所は8地域に77カ所を設置。避難者は前日より5人少ない976人となっている。

市ではこの日、仮設住宅の入居申し込みをスタート。同日同4時現在、申込者数などは明らかになっていないが、入居について避難者からは「自分が生活する地域に住みたい」「コミュニティーを壊さないように仮設へ入りたい」との要望があったという。

第一中学校グラウンドには、現在着工中の36戸を含めて200戸建設予定であるとした。

住田町

住田町は26日も窓口業務や震災に関する各種相談対応を実施。上水道も稼働していることから、災害対策本部では同日も自衛隊や各自治体による給水支援対応に努めた。

町民の安否不明者は、佐々木信雄さん（世田米大渡）紺野仁さん（上有住桧山）佐々木洋子さん（下有住新切）の3人。引き続き情報収集にあたっている。

27日も窓口業務や相談を受け付け、インターネット閲覧サービスも行う。時間は午前9時から午後5時まで。

遊林ランド種山での被災者への風呂無料開放（午前9時～午後5時、貸しタオル、食事は実費）も続けている。

町と同施設では陸前高田市災害対策本部との協議のもと、27日から同市小友町華蔵寺までの往復送迎バスを運行することを決定。日、火、木、土は24人乗り、月、水、金は36人バスとなる。華蔵寺到着は午前10時過ぎの予定。

安否情報 伝言メモ

▽オフィス小川に勤めている山口立子（赤崎町）黄川田やえ子（高田町）佐々木留作（同）藤井祐子（広田町）前川昌弘（同）中村重人（日頃市町）吉田仁（末崎町）藤村正美（大船渡町）紀室勝利（末崎町）佐々木光晴（横田町）、ご本人またはご家族などご連絡をください。連絡先はオフィス小川の小川（TEL080・1653・0448）今野（TEL090・5206・8284）まで。

▽郵便局高田支店の菅野秀徳さんほか、勤めている人の安否を知っている方は、釘子さん（TEL090・2465・0018）まで連絡ください（泉田）。

4月から個別配達再開

東海新報社では、今回の大津波被災翌日から緊急災害特集を避難所、一部地域などに無償個別配布を続けていますが、4月1日より有償の個別配達を開始することになりました。被災によって少なからずが打撃を受け、やむなく配達を休止していた販売店もありましたが、すべてが復旧に至ってはおらないものの、営業再開の体制が整った販売店から順に配達を開始いたします。

新規購読ご希望の方は、左記の販売店もしくは当社へ（TEL0801・1661・0672）お申し込みくださいますようお願いいたします。

◇販　売　店◇

大船渡市＝小松専売店（大船渡町）、山本新聞店（同）、ふなと新聞店（同）、大船渡読売（同）、三浦新聞店（盛町）、盛読売（同）、千葉梅新聞店（三陸町綾里）、菅生新聞店（同越喜来）

陸前高田市＝高橋新聞店（小友町）、吉田新聞店（広田町）、奥野新聞店（横田町）、山根新聞店（竹駒町・米崎町・高田町・気仙町・下矢作地区）、林新聞店（矢作町）

住田町＝高橋新聞店（世田米）

亡くなられた方々――26日分――

大船渡、陸前高田両市が26日までに確認した新たな犠牲者は次の通り。（安置場所は変更する可能性があります）

【大船渡市】

▽大船渡町＝熊谷節男（61）後藤和治（81）新沼偲（84）

▽気仙沼市＝小松三正（53）

▽陸前高田市＝菅野睦子（79）

【陸前高田市】

▽米崎中学校　熊谷忠一（高田町）

▽下矢作小学校　村上キミ子、井筒キサ江（59）

▽矢作小学校　村上優一、鈴木浩美

▽矢作中学校　菅野千春、佐々木ヒラ子

▽住田町生涯スポーツセンター　三宮昌弘（52）菅原芳子（71）菅原輝男（75）菅野敬子（73）熊谷芳朗（76）小友栄二（76）水野匡子（71）千田壽行（70）上田美代子（57）金野トキコ（91）松田安希子（63）吉田みとり（90）菊池フミ子（80）白山和也（23）藤井広子（50）熊谷洋子（68）荻原健（17）金野要（67）岡本巌（77）菅野睦子（79）松澤拓実（6）松澤晴美（40）高橋敦子（47）坂本喜久子（62）伊東進太郎（28）鈴木真弓（30）杉田祝子（84）熊谷順子（80）佐々木登志子（68）

災害対応で廣田氏起用

■県異動

県は4月1日付で発令の平成23年度の人事異動を内示した。県を挙げて東日本大震災の災害対応業務に優先的に取り組むため、当初の人事案の一部を変更した。

主な異動は、災害対応に係る体制強化では、今回退職勧奨で退任予定だった秘書広報室長の廣田淳氏（59）と、国に復帰予定だった県土整備部長の平井節夫氏（50）の2人を理事に起用した。

大船渡地方振興局長も務めた廣田氏は専ら災害対応業務に従事し、知事を直接補佐しながら関係機関との情報共有の迅速化や円滑化などを推進。

平井氏は県土整備部門に係る災害復旧対応の総合的な調整を主管する。

東海新報

発行所
㈱東海新報社
〒022-0002 大船渡市大船渡町字鷹頭9-1
電話番号 0192-27-1000(代)
ファクシミリ 0192-27-2154
振替口座 02300-9-188

©東海新報社

東海新報Web
http://www.tohkaishimpo.com/

きょうの紙面

道路網徐々に回復、避難者名簿（大船渡市）と生活関連情報…2面
届け善意のランドセル、被災した児童向けにPTAが活動……3面
奇跡的に残った高田松原のマツ1本、力強く希望伝える……4面

本紙は3月いっぱい、無料で配布させていただいています。27日（日）の新聞製作を休みます。このため28日（月）付の新聞が休刊となります。ご了承下さい。

東海新報社

安否情報・伝言メモ

本紙は、安否情報や伝言メモを本社で随時受付しています。紙面をご自由にお使いください。また、窓口に当日発行紙を置いています。避難場所でもご覧になれます。